



CSW 活動報告書

令和元年度 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)



C こまったときの **S** そうだんは **W** わたしたちへ



所沢市社会福祉協議会
地域福祉推進課

目 次

■はじめに	1
■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは	2
■CSW 活動報告	
I 相談集計表	4
II 地区別支援回数（個別支援・地域支援）	7
III 地域の実態把握及び支援	11
■まとめ	
I データから見る考察	15
II CSW 活動のまとめ	16
■参考：令和元年度地域アセスメントシート	18

はじめに

この報告書は、所沢市社会福祉協議会が平成 27 年度のモデル配置を経て、平成 28 年度から市内全行政区に配置し活動を開始したコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）の取り組みや相談対応から見てきた現状と課題について「見える化」を試みるものです。

CSW は個別の支援を行いながらニーズの共通性に着目し、地域の生活課題に向け、住民や関係機関・団体と協働して支え合いのまちづくりに取り組む専門職です。CSW の配置から 5 年、CSW はいくつもの複雑な課題を抱え SOS を発することなく地域から孤立している等、生きづらさや生活に困難を抱えている方や世帯をいかに見出し必要な支援につなげていくか、そして支援を起点に安心して暮らせるまちづくりにつなげていけるかを模索してきました。

そのような中、コロナウイルス感染拡大により、新たな地域福祉推進のあり方を考えざるを得ない局面を突然迎えることとなりました。緊急事態宣言下において CSW の活動が制限される中で取り組んだことも少し触れていますが、新しい生活様式における支援のあり方は喫緊の検討課題です。

令和元年度に所沢市で実施された「第 3 次所沢市地域福祉計画策定に関する市民意識調査」では、CSW についての市民の認知度の低さが明らかとなりました。本報告書が CSW の活動について広く市民の皆様の理解を広げ、支え合いのまちづくりを地域住民、関係機関・団体の皆様とともに一層進めるきっかけとなれば幸いです。

社会福祉法人 所沢市社会福祉協議会

CSW 報告書発行に寄せて

所沢市社会福祉協議会 地域福祉活動推進会議 委員長
東京通信大学人間福祉学部人間福祉学科 教授
田中 英樹



ここに、令和元年度の CSW たちの活動を自分たちでまとめた第二報とも言うべき、CSW 報告書が上梓されました。

本報告書は、単に活動の足跡を記しておくだけでなく、データをしっかりと読み解き、実践が切り開いてきた地平や今後の方向性を示す貴重な資料となっています。報告書の中身は読んで頂ければお分かりと思いますが、一言ふたこと、コメントを述べておきます。

まずは、CSW についてです。21 世紀に入り福祉ニーズの増大が急速に広がり、これまでの低所得者、子ども、障害者、高齢者などの対象別の施設や相談機関の対応や、後追いで法律を整備することでは対応できない、いわゆる「複合的なニーズ」が顕在化してきました。そこで登場してきたのが、CSW という地域基盤の福祉専門職です。CSW は、個別の支援活動を担いながらも、ニーズの根源である環境にも働きかける、つまり誰にとっても暮らしやすい地域づくりをめざして住民と共に活動する福祉の新しい担い手のことです。

次いで、報告書でも重要なキーワードであるアセスメントについてです。アセスメントは、個別ケアにおいても地域全体においても援助過程の最初の段階になります。アセスメントは、利用者の生きる（生活する）見通しを CSW と一緒に探すことであり、また、地域にとってはその解決基盤を構築していくために必要な見立てのことを言います。そのため最も大事なことは、そこにストレングスを発見することです。報告書の短い文章の中に、クライアントだけでなくきっと CSW の成長も、すなわちストレングスを見つけることもできるでしょう。

■ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは

地域を基盤として活動し、地域の中で支援につながらず困っている方を発見し、支援します。従来の制度や法の枠組みのなかでは十分に対応できない、いわゆる「制度の狭間」で困りごとを抱える人に寄り添いながら、ニーズの共通性に着目し、地域の生活課題の解決に向け、地域住民と協働して新しい仕組みづくりにとりくむ専門職です。

◎市内11行政地区ごとに担当CSWを配置しています。

CSW の主な活動

キャッチフレーズ

ささえる つながる みつけだす

● ささえる

ひきこもり、セルフネグレクト（福祉サービスを拒んだり、本人が支援の必要性を感じていない等）やいわゆる「ごみ屋敷」の問題など適切なつなぎ先がない方、複数の生活課題を抱えている等、アウトリーチ※¹を基本とした相談支援を行っています。制度の狭間で生活のしづらさや、生きづらさを抱える課題を、自治会・民生委員・児童委員・ボランティア等、地域住民と協力しながら、課題の解決に向けて一緒に取り組んでいます。また、所沢市子どもと福祉の未来館 1 階に設置する福祉の相談窓口担当職員の他、必要に応じて福祉、保健、教育等関係機関等とも連携して支援しています。

※ 1 アウトリーチ…積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること

【生活上の様々な困りごと・課題の例】

- 離職による生活困窮
- 加齢による体力低下や認知症のため身の回りのこと（買物・掃除・ゴミ出し等）ができなくなる
- たくさんの課題を抱え、どこに相談していいのかわからない
- 長い間自宅に引きこもっていて、一歩を踏み出せない
- 介護・育児（ダブルケア）によるストレス、虐待
- 定年退職後、何も楽しみ・生きがい（趣味等）がない 等

● つながる

自ら SOS を発信できない方たちや、社会的孤立により支援につながらない方等を、地域の中で活動することを通して地域住民の声をもとに、問題が重篤化する前に発見し、必要なサービスへつなぎます。また、住みなれた地域で安心して暮らせるよう、住民活動による支援とつながるためのサポートをしています。

人と人をつないだり、人と情報をつないだり、様々な場面で「つなぐ」役割を担っています。



【CSW がつなぐ住民活動の例】

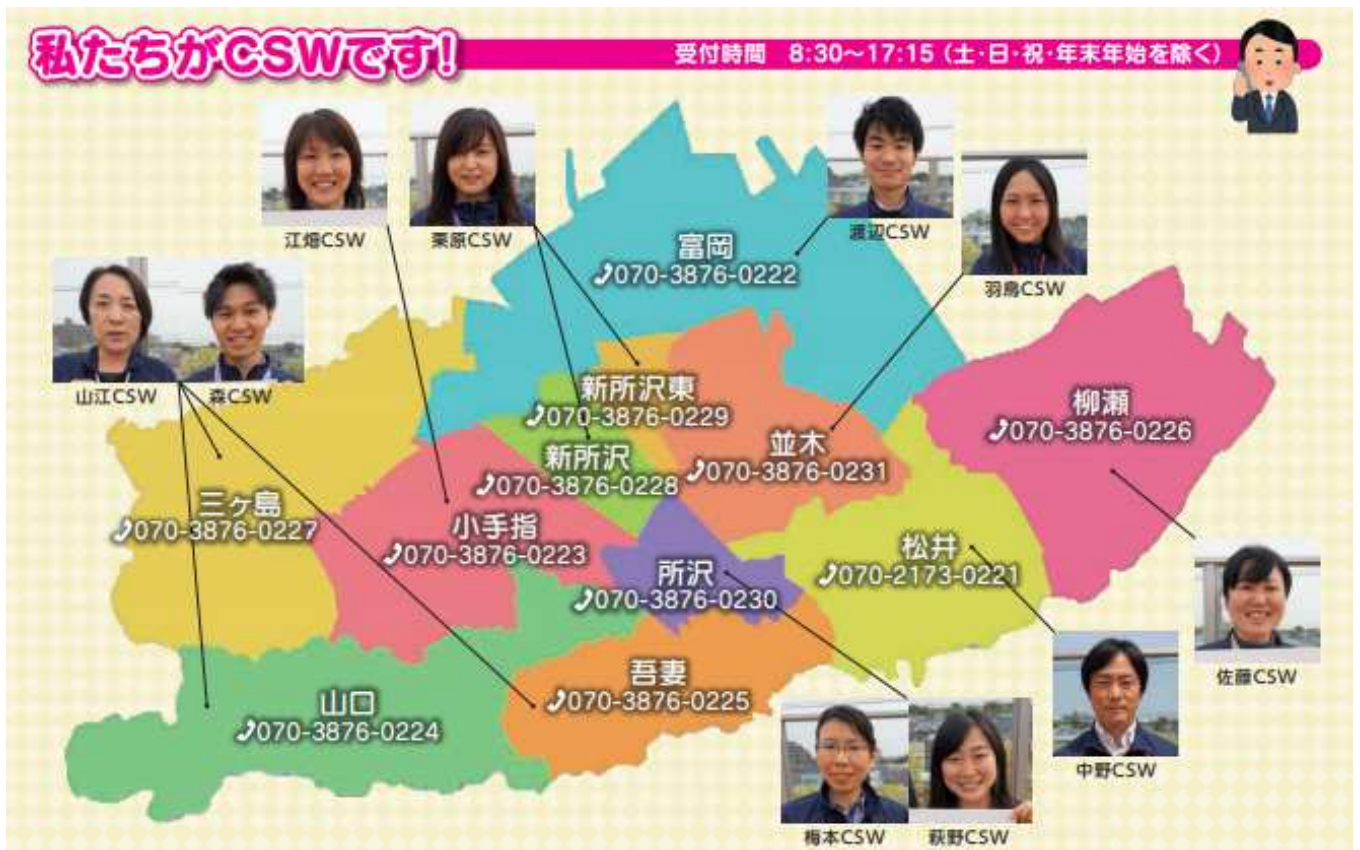
- ボランティア活動・サークル活動等
- 高齢者サロン・子育てサロン・多世代型サロン等
- こども食堂・学習支援等

● みつけだす

地域で開催される会議体や相談会に参加するとともに、地域の中で心配な方や気になる方と CSW がつながれるように、相談会の開催や日頃からの関係づくり、周知活動を行っています。また、住民懇談会等を開催して、地域課題の把握にも努めています。

【会議体や相談会の例】

- 地域づくり協議会・地区社協との連携・協働
- 地域ケア会議への参加
- 住民懇談会など福祉情報交換会の開催
- 各地区の身近な相談窓口の設置等



令和元年度各地区 CSW 配置図
所沢社協だより No.92 より

CSW活動報告

CSWは、誰もが安心して地域で暮らせるように民生委員・児童委員やボランティア等の各種関係機関・団体の皆様、自治会・町内会、地域づくり協議会等の皆様と連携し、居場所づくりや支え合いのしくみづくりを進めました。

I 相談集計表

この表は、平成31年4月1日から令和2年3月31日に、CSWが対応した相談件数、相談対象者の種別及び年齢層、相談方法、相談内容を集計したものです。

【総合的福祉相談（個別相談支援、被災者支援、その他）】

	令和元年度	平成30年度
個別相談支援	2,978	1,721
被災者支援	12	24
その他	242	202
合計（延べ件数）	3,232	1,947

【相談対応件数（延べ件数）】

	令和元年度	平成30年度
新規相談	628	478
継続相談	2,604	1,469
合計	3,232	1,947

【対象者種別】

	延べ件数	構成比
高齢者	1,010	31.3%
障害者	674	20.9%
子ども	370	11.4%
生活保護	231	7.1%
施策利用なし	412	12.7%
団体等	65	2.0%
その他	470	14.5%
合計	3,232	100.0%

【相談方法】

	令和元年度		平成30年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
電話相談	1,575	48.7%	844	43.3%
訪問	621	19.2%	481	24.7%
来所	392	12.1%	195	10.0%
相談会	77	2.4%	96	4.9%
出先にて	374	11.6%	193	9.9%
その他	193	6.0%	138	7.1%
合計	3,232	100.0%	1,947	100.0%

【相談者】

	令和元年度		平成30年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
本人	1,971	61.0%	1,119	57.5%
民生委員	140	4.3%	116	6.0%
家族	265	8.2%	171	8.8%
関係機関	683	21.1%	386	19.8%
近隣住人	84	2.6%	83	4.3%
その他	89	2.8%	72	3.7%
合計	3,232	100.0%	1,947	100.0%

【対象者】

	令和元年度		平成30年度	
	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数
0～9歳	128	22	59	16
10～19歳	139	16	124	8
20～29歳	48	19	55	8
30～39歳	181	17	27	5
40～49歳	243	28	77	15
50～59歳	376	42	260	33
60～64歳	78	15	41	6
65～70歳	197	21	195	12
70～74歳	290	33	133	14
75歳以上	543	59	190	21
年齢不明	1,009	280	786	190
合計	3,232	552	1,947	328



CSWの支援は長期にわたるケースが多いため、年度を重ねることで支援対象者が増加していく傾向にあります。

【相談内容】

	相談内容	令和元年度		平成30年度	
		延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
1	サービス利用	150	4.6%	98	5.0%
2	病気	104	3.2%	124	6.4%
3	けが	27	0.8%	13	0.7%
4	障がい（手帳有）	176	5.4%	92	4.7%
5	障がい（疑い）	108	3.3%	76	3.9%
6	メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）	255	7.9%	150	7.7%
7	自死企図	11	0.3%	5	0.3%
8	住まい不安定	76	2.4%	110	5.6%
9	ホームレス	27	0.8%	2	0.1%
10	経済的困窮	317	9.8%	162	8.3%
11	（多重・過重）債務	15	0.5%	23	1.2%
12	家計管理の課題	81	2.5%	39	2.0%
13	就職活動困難	28	0.9%	13	0.7%
14	就職定着困難	30	0.9%	3	0.2%
15	生活習慣の乱れ	234	7.2%	73	3.7%
16	社会的孤立	234	7.2%	155	8.0%
17	家族関係・家族の問題	234	7.2%	110	5.6%
18	不登校	60	1.9%	37	1.9%
19	ふくし学習（初回相談のみ）	19	0.6%	（非行）3	0.2%
20	中卒・高校中退	3	0.1%	17	0.9%
21	ひとり親	58	1.8%	35	1.8%
22	DV・虐待	44	1.4%	15	0.8%
23	外国籍	20	0.6%	3	0.2%
24	刑余者	0	0.0%	4	0.2%
25	コミュニケーションが苦手	25	0.8%	16	0.8%
26	能力の課題（識字・言語・理解等）	36	1.1%	20	1.0%
27	被災	12	0.4%	24	1.2%
28	介護	54	1.7%	61	3.1%
29	育児	88	2.7%	9	0.5%
30	LGBT	1	0.0%	0	0.0%
31	地域との関係	157	4.9%	155	8.0%
32	ボランティアしたい	242	7.5%	53	2.7%
33	ボランティアしてほしい	207	6.4%	45	2.3%
34	その他	99	3.1%	202	10.3%
	合計	3,232	100.0%	1,947	100.0%

【対象者年代別相談者】

対象者年代	相談内容(対象者との関係)						合計
	本人	民生委員	家族	関係機関	近隣住人	その他	
0～9歳	87	3	20	14	0	4	128
10～19歳	79	4	21	19	15	1	139
20～29歳	35	1	0	9	0	3	48
30～39歳	129	1	22	26	3	0	181
40～49歳	185	0	15	39	1	3	243
50～59歳	214	7	25	110	12	8	376
60～64歳	50	2	6	12	2	6	78
65～70歳	95	0	2	96	3	1	197
70～74歳	194	10	1	74	2	9	290
75歳以上	277	81	71	84	10	20	543
年齢不明	626	31	82	200	36	34	1,009
合計	1,971	140	265	683	84	89	3,232

匿名での相談やちょっと
気になる人がいるという
相談の場合、年齢がわか
らないため年齢不明が多
くなっています。

【対象者年代別主な相談内容】

対象者年代	相談内容																																		合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
0～	4	0	0	3	8	3	0	1	0	14	0	1	0	0	16	0	20	13	1	0	9	0	0	0	0	1	0	0	1	21	0	1	7	3	1	128
10～	2	0	0	21	5	1	0	0	0	10	0	5	2	0	3	17	17	8	0	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	15	0	3	15	6	1	139
20～	0	0	0	1	0	3	0	0	0	3	0	0	1	0	2	3	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	21	0	48	
30～	1	2	0	29	12	47	3	0	0	7	1	21	2	9	5	7	13	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	4	0	4	0	3	8	0	181	
40～	8	10	0	21	7	26	0	6	0	22	5	1	2	4	47	11	21	1	1	0	3	1	4	0	2	1	3	0	4	1	0	6	18	7	243	
50～	14	25	3	24	17	33	1	10	0	26	0	0	4	7	28	25	33	7	2	0	11	9	11	0	3	9	0	1	8	0	18	24	17	6	376	
60～	6	3	0	3	0	1	0	4	7	7	0	0	4	1	4	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	11	10	3	78	
65～	17	16	0	16	0	7	2	4	0	37	5	7	2	0	16	20	3	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5	0	0	0	16	12	7	197		
70～	5	4	0	0	0	30	3	16	2	51	0	13	0	1	44	30	6	0	1	0	1	8	0	0	0	0	4	7	8	0	22	9	16	9	290	
75～	59	22	6	3	28	35	0	24	0	48	3	25	8	0	41	64	39	0	1	0	0	2	3	0	6	8	0	22	0	0	26	50	11	9	543	
不明	34	22	18	55	31	69	2	11	18	92	1	8	3	8	28	55	68	31	13	0	30	19	2	0	9	14	5	16	24	0	81	101	85	56	1,009	
合計	150	104	27	176	108	255	11	76	27	317	15	81	28	30	234	234	234	60	19	3	58	44	20	0	25	36	12	54	88	1	157	242	207	99	3,232	
構成比	4.6%	3.2%	0.8%	5.4%	3.3%	7.9%	0.3%	2.4%	0.8%	9.8%	0.5%	2.5%	0.9%	0.9%	7.2%	7.2%	7.2%	1.9%	0.6%	0.1%	1.8%	1.4%	0.6%	0.0%	0.8%	1.1%	0.4%	1.7%	2.7%	0.0%	4.9%	7.5%	6.4%	3.1%	100.0%	

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------|----------------|
| 1 サービス利用 | 16 社会的孤立 | 31 地域との関係 |
| 2 病気 | 17 家族関係・家族の問題 | 32 その他 |
| 3 けが | 18 不登校 | 33 ボランティアしたい |
| 4 障がい(手帳有) | 19 ふくし学習(初回相談のみ) | 34 ボランティアしてほしい |
| 5 障がい(疑い) | 20 中卒・高校中退 | |
| 6 メンタルヘルスの課題(うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など) | 21 ひとり親 | |
| 7 自死企図 | 22 DV・虐待 | |
| 8 住まい不安定 | 23 外国籍 | |
| 9 ホームレス | 24 刑余者 | |
| 10 経済的困窮 | 25 コミュニケーションが苦手 | |
| 11 (多重・過重)債務 | 26 能力の課題(識字・言語・理解等) | |
| 12 家計管理の課題 | 27 被災 | |
| 13 就職活動困難 | 28 介護 | |
| 14 就職定着困難 | 29 育児 | |
| 15 生活習慣の乱れ | 30 性別 | |



II 地区別支援回数（個別支援・地域支援）

CSWによる相談対応や支援の内容を地区ごとに集計したものです。また、市内全体にかかわる支援や市外の支援についても集計しています。

全体で見ると、前年度よりも「関係者との情報共有」が多くなっており、多様な方々との連携が進んできています。

順位別相談内容（H31.04～R02.03）

【所沢地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	26	ボランティア活動をしたい
2	23	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	6	近隣トラブル
3	6	ボランティア要請
5	4	今後の不安
5	4	ごみ屋敷
7	3	精神障害
7	3	経済困難
7	3	ひとり親
-	12	その他

【所沢地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	43	社協が運営する拠点活動
2	28	地域の居場所（サロン・体操等）
3	12	ふくし掲示板管理
4	10	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	6	地域福祉サポーターの取り組み
6	3	地域行事への参加・協力
6	3	担い手・ボランティア活動の相談支援
8	2	地域ケア会議（第2層協議体）
8	2	第2層SC※ ² との連携
-	4	その他

【松井地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	69	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	30	関係者との情報共有
3	25	ごみ屋敷
4	19	ボランティア活動をしたい
5	15	安否確認
6	11	生活支援
7	7	どこに相談したらいいか
7	7	高齢
7	7	引きこもり
10	6	精神障害
10	6	今後の不安

【松井地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	63	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
2	60	ふくし掲示板管理
3	58	地域の居場所（サロン・体操等）
4	35	地域行事への参加・協力
5	29	地域福祉サポーターの取り組み
6	24	ふくし学習（学校関係）
7	21	こども支援（こども食堂・学習支援）
8	11	相談会の開催
9	10	地域ケア会議（第2層協議体）
-	10	その他の会議

【柳瀬地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	27	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	12	ボランティア活動をしたい
3	11	金銭管理
3	11	ボランティア要請
3	11	こども食堂
6	9	家族関係
7	7	近くで通える場を知りたい
8	5	学習課題
8	5	ふくし学習相談
10	4	関係者との情報共有

【柳瀬地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	30	ふくし学習（学校関係）
2	23	地域からの問い合わせ・対応
3	17	こども支援（こども食堂・学習支援）
4	10	地域の居場所（サロン・体操等）
4	10	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
6	8	担い手・ボランティア活動の相談支援
6	8	相談会の開催
8	7	ふくし掲示板管理
9	5	地域行事への参加・協力
-	10	その他

※SC…生活支援コーディネーター（高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援および介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす者）

【富岡地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	19	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	15	ボランティア要請
3	10	経済困難
4	9	近隣トラブル
5	5	関係者との情報共有
5	5	ボランティア活動をしたい
7	3	高齢
7	3	金銭管理
9	2	介護
-	25	その他

【富岡地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	32	地域の居場所（サロン・体操等）
2	18	相談会の開催
3	15	地域行事への参加・協力
4	9	ふくし掲示板管理
5	6	担い手・ボランティア活動の相談支援
5	6	ふくし学習（学校関係）
7	5	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
8	4	地域ケア会議（第2層協議体）
-	15	その他の会議
-	9	その他

【新所沢地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	24	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	12	ボランティア活動をしたい
3	10	近隣トラブル
3	10	関係者との情報共有
5	8	ボランティア要請
6	7	どこに相談したらいいか
7	6	家族関係
7	6	安否確認
9	5	経済困難
-	18	その他

【新所沢地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	28	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
2	11	相談会の開催
3	9	第2層SCとの連携
4	6	地域福祉サポーターの取り組み
5	5	ふくし掲示板管理
6	4	地域行事への参加・協力
6	4	企業・商店等の地域公益活動支援
8	2	地域の居場所（サロン・体操等）
8	2	地域ケア会議（第2層協議体）
-	5	その他の会議

【新所沢東地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	15	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	7	ごみ屋敷
3	6	ボランティア要請
4	5	ボランティア活動をしたい
5	2	自宅内を整頓したい
5	2	どこに相談したらいいか
7	1	不安
7	1	今後の不安
7	1	孤立
-	14	その他

【新所沢東地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
2	4	第2層SCとの連携
3	2	地域ケア会議（第2層協議体）
3	2	人材育成・講座・学習等（学校関係以外）
3	2	ふくし掲示板管理
6	1	こども支援（こども食堂・学習支援）
6	1	ふくし学習（学校関係）
-	1	その他の会議

【三ヶ島地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	23	ボランティア活動をしたい
2	18	騒音問題
3	16	近隣トラブル
4	13	今後の対応についての相談・打ち合わせ
5	6	精神障害
5	6	ボランティア要請
7	5	家族関係
8	4	今後の不安
8	4	経済困難
-	4	その他

【三ヶ島地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	10	第2層SCとの連携
2	7	地域福祉サポーターの取り組み
2	7	地域行事への参加・協力
4	4	地域ケア会議（第2層協議体）
4	4	こども支援（こども食堂・学習支援）
4	4	ふくし学習（学校関係）
4	4	地域の居場所（サロン・体操等）
8	3	人材育成・講座・学習等（学校関係以外）
8	3	関係機関との調整
-	4	その他の会議

【小手指地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	44	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	36	ごみ屋敷
3	30	近隣トラブル
4	15	安否確認
5	14	経済困難
5	14	ボランティア活動をしたい
7	13	どこに相談したらいいか
8	9	金銭管理
9	7	家族関係
-	10	その他

【小手指地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	35	地域の居場所（サロン・体操等）
2	13	第2層SCとの連携
3	9	地域行事への参加・協力
3	9	地域ケア会議（第2層協議体）
5	5	ふくし学習（学校関係）
5	5	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	5	地域福祉サポーターの取り組み
8	2	相談会の開催
8	2	ふくし掲示板管理
-	10	その他

【山口地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	27	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	16	経済困難
3	15	今後の不安
4	11	ボランティア活動をしたい
5	9	こども食堂
6	7	病気
6	7	実施方法についての相談
6	7	関係者との情報共有
9	6	家族関係
-	18	その他

【山口地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	19	社協が運営する拠点活動
2	15	地域の居場所（サロン・体操等）
2	15	こども支援（こども食堂・学習支援）
4	12	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	4	地域行事への参加・協力
6	2	地域福祉サポーターの取り組み
6	2	地域ケア会議（第2層協議体）
6	2	担い手・ボランティア活動の相談支援
-	10	その他の会議
-	7	その他

【吾妻地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	9	ボランティア活動をしたい
2	5	どこに相談したらいいか
3	4	経済困難
4	3	高齢
4	3	近隣トラブル
4	3	引きこもり
7	2	病気
7	2	精神障害
7	2	今後の対応についての相談・打ち合わせ
7	2	ボランティア要請

【吾妻地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	19	地域の居場所（サロン・体操等）
2	13	ふくし学習（学校関係）
3	6	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
4	5	こども支援（こども食堂・学習支援）
5	4	地域福祉サポーターの取り組み
6	2	地域ケア会議（第2層協議体）
6	2	第2層SCとの連携
6	2	企業・商店等の地域公益活動支援
-	9	その他の会議
-	4	その他

【並木地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	25	不安
1	25	今後の対応についての相談・打ち合わせ
1	25	ボランティア活動をしたい
4	24	関係者との情報共有
4	24	こども食堂
6	17	今後の不安
7	14	どこに相談したらいいか
8	12	ごみ屋敷
9	11	ボランティア要請
-	75	その他

【並木地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	57	相談会の開催
2	54	こども支援（こども食堂・学習支援）
3	15	地域の居場所（サロン・体操等）
4	10	ふくし学習（学校関係）
5	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
6	6	ふくし掲示板管理
7	5	地域福祉サポーターの取り組み
8	4	第2層SCとの連携
9	3	地域ケア会議（第2層協議体）
-	12	その他

【市内全域地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	6	ボランティア活動をしたい
2	3	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	3	ボランティア要請
4	2	こども食堂
5	1	ふくし学習相談
5	1	どこに相談したらいいか
-	4	その他

【市内全域地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	41	関係機関との調整
2	12	担い手・ボランティア活動の相談支援
2	12	こども支援（こども食堂・学習支援）
4	10	人材育成・講座・学習等（学校関係以外）
-	43	その他の会議
-	17	その他

【市外・その他地区個人支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	7	今後の不安
1	7	ボランティア活動をしたい
3	6	ボランティア要請
4	4	こども食堂
5	3	今後の対応についての相談・打ち合わせ
6	2	精神障害
6	2	どこに相談したらいいか
8	1	近くで通える場を知りたい
-	6	その他

【市外・その他地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	16	関係機関との調整
2	4	地域からの問い合わせ・対応
3	2	地域行事への参加・協力
3	2	こども支援（こども食堂・学習支援）
5	1	担い手・ボランティア活動の相談支援
5	1	第2層SCとの連携
5	1	ふくし学習（学校関係）
-	5	その他

CSWは個別の相談や、地域の居場所づくり、支え合いの活動への支援、ネットワークの構築や情報共有、ふくし学習等、多岐にわたる活動をしています。

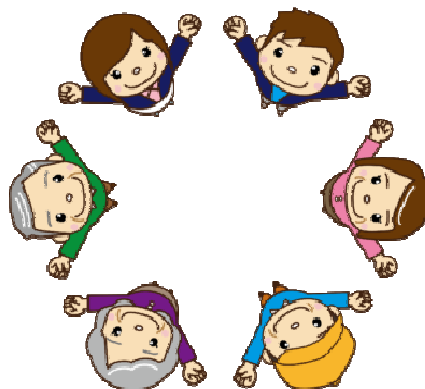


Ⅲ 地域の実態把握及び支援

CSWは個別の相談対応や、担当地区において課題や社会資源等の実態把握及び様々な取り組みに対する支援を行っています。個別の相談から見えてくる地域のニーズを地域住民や関係団体等と共有し、その解決に向けた話し合いや具体的な取り組みを通じて、地域のつながりづくりや支え合いの仕組みづくりを進め、地域の福祉力向上を図っています。この表は、地域におけるその具体的な支援や内容を集計したものです。

令和元年度の特徴としては、主に市内小中学校等からの「ふくし学習」に関する相談対応や支援が前年度と比較して増加しました。また、令和2年2月後半から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議等が中止になり、数値が減少しています。

内容	令和元年度	平成30年度
こども支援（こども食堂・学習支援）	27	39
地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議	23	22
地域行事への参加・協力	17	16
担い手・ボランティア活動の相談支援	7	7
相談会の開催	45	99
ふくし学習（学校関係）	36	4
地域の居場所（サロン・体操等）	41	29
地域ケア会議	18	31
企業・商店等の地域公益活動支援	5	3
その他の会議（ボランティア連絡協議会、市民活動支援センター等の会議）	31	27
その他	14	47



【地域においてCSWが支援でかかわった各種取り組みの様子】

地域福祉活動推進会議

令和元年5月31日

関係機関や地域住民の方々と共に「所沢市地域福祉活動計画～ところWITHプラ～」の進行管理を行っています。



まちづくりプロジェクト（小手指地区）

令和2年2月3日

市内に在住・在学する高校生が集まり、地域を盛り上げるための話し合いにCSWも参加しました。



ネオポリス買い物支援隊食事会（富岡地区）

令和元年6月19日

関係者との食事会に参加し、利用している住民、ボランティア等と気軽に相談してもらえる関係の形成を行っています。



椿の茶の間（小手指地区・山口地区）

令和元年11月7日

地域の方々にアンケートを行い、地域の活動に関心がある方を募り、百歳体操をはじめとしたコミュニティの場を設けています。



CSWは、アウトリーチ（積極的に出向いて働きかけること）を基本に活動しています！



みかじまさんさん芋煮会（三ヶ島地区）

令和元年6月19日

地域福祉サポーター発案の地域のつながりづくりのための企画運営をサポートしました。



おおたかの森（ボランティア活動支援）

令和元年8月22日

ボランティア体験に参加したことをきっかけに、ボランティア団体と学校とのつながりができ、CSWの活動の広がりが持てました。



金山食堂だれでもランチ（所沢地区）

令和元年9月25日

月1回、こどもから大人までが集い、昼食をみんなで作って食べる活動です。立上げからCSWが関わり、企画運営をボランティアとともに検討し、必要な支援を行っています。



新堀くつろぎサロン（山口地区）

令和元年10月23日

地域の方や自治会役員が中心となり、高齢者の居場所づくりを考え、CSWが活動の立上げに関わりました。



CSWは、人と人、人と場所、
人と情報をつなぎながら、地域
の中で活動しています。



みんなであそぼ！（吾妻地区）

令和元年11月25日

月1回、地域の幼稚園に協力を得て、高齢者と子ども、若い母親が交流するイベントを、地域のサークル団体と共催で開催しています。



手話サークルーニ三（ボランティア活動支援）

令和元年8月23日

夏休みの期間にボランティア活動を体験するプログラムを協働で企画し、手話や聴覚障がいについて理解する講座を実施しました。



ふくし学習（学校関係）

令和元年9月3日

小学校のふくし学習において、障がい当事者を講師として迎えるため、CSWが講師と学校をつなぐ授業への協力を行いました。



三ヶ島地区まちづくり推進会議地域福祉部会

令和元年9月23日

地域住民を対象に「人生100年時代を生きる」をテーマに講演とところん元気百歳体操実演の2部制で講演会を開催しました。



ふくし学習（学校関係）

令和元年10月30日

市内の小中学校で、CSWが講師となり「ふだんのくらしのしあわせ」をテーマに、ふくし学習プログラムを提供しました。



富岡地区認知症サポーター

令和元年10月8日

富岡地域づくり協議会、富岡地域包括支援センターとCSWによる共催で開催しました。



■まとめ

I データから見る考察

つながりを絶やさない相談支援

令和元年度は個別ケースの相談件数が、延べ件数で3,232件となり、平成30年度に比べ大きく増加しています。困りごとを抱えた住民がその不安などから、1日や1週間のうちに複数回連絡が入ることも少なくありません。また、複合的な課題がある世帯や自らSOSを出すことができない世帯に対しては、地域の方に見守りをお願いした後も、CSWが定期的に訪問する等、必要に応じて一定の関わりを続けています。最初の困りごとが解決しても支援終結とせず、地域の中でつながりを絶やさないような支援を心がけており、これはCSWの支援の特徴でもあります。結果として終結件数は少なくなり、相談支援件数の増加にもつながっています。

多様化・複雑化する相談内容

令和元年度も「経済的困窮」の相談内容が最も多く、無年金や年金額が低い等、65歳以上の特に後期高齢者からの相談が目立ちました。次いで相談の多かったメンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害等）については、30歳代の働き盛りの世代から多く相談がありました。人間関係でのストレスから体調を崩し、仕事に就けない状態が長期にわたっている方が多く見られました。そのような期間が長期化するほど自信を無くし、他者との関わりを避けるようになったため、社会的孤立につながっているケースも少なくありませんでした。

また、社会的孤立している方の多くは、家族関係にも問題を抱えている場合が多く、身体機能や認知機能が低下したり、生活に困難が生じても、誰にも気付いてもらえず、一人で抱え込むケースや通院や介護等生活する上で手助けしてくれる人がいないケースが多くありました。制度やサービスにつながったとしても、カバーしきれない“ちょっとした困りごと”を解決しながら、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域の方々の声かけや支え合いも含めた仕組みづくりが今後も鍵となると考えます。

CSWは個人の困りごとに寄り添いながら、地域の課題を抽出し、解決に向けた取り組みを地域のみならず進められるような支援を進めていきます。



新しい生活様式を取り入れた取り組み

年度の後半では新型コロナウイルス感染症拡大防止により、地域住民による支え合い活動等の取り組みが減少しました。住民が抱える地域生活課題に対する支援や地域の活動拠点等を支援する際には、「新しい生活様式」を取り入れる等、地域福祉活動のあり方を見直す必要があります。つながりを絶やさない支援を継続するためにも、地域の方々をはじめ関係機関とのさらなる検討や連携が求められます。

Ⅱ CSW活動のまとめ

(1) CSW活動の広がり

CSWの活動は、広く個人や地域を対象としており、活動内容も多岐にわたるため、「CSWの役割がわかりづらい」といった声があることも事実です。しかし、地域住民や関係機関等と連携することで、少しずつCSWの活動目的や役割を理解していただけるようになってきました。CSWの強みは、世帯全員の支援に携われるということです。「高齢者」・「障がい者」・「こども」などの分野によって、相談先が異なっていますが、CSWは世帯全体を見て、必要な支援につないでいくことができるのです。複数の困りごとを抱えていたり、世帯人員それぞれに係る複数の専門機関等を横につなぎ、連携・情報共有のしくみを構築し、それぞれの役割を担っていくためのコーディネートができることも強みです。

また、これまで積み上げてきた地域とのつながりを活かしながら、民生委員・児童委員や自治会等の方々からも、地域住民として気になる（心配な）近隣の方や、自らSOSを発信することが困難な方、どこに相談して良いかわからずに困っている方等をつないでいただけるようになりました。その結果が相談件数の増加にも表れていると考えます。

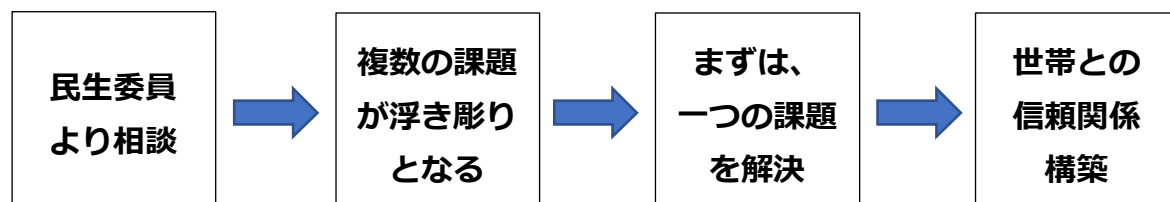
(2) 個別相談の対応

事例1 7040問題を抱える世帯への関わり

母（70代）兄弟（40代）の3人世帯。民生委員から「気になる世帯がある」との相談を受け訪問。世帯収入は遺族年金のみで、兄弟は中学校卒業後、仕事に就いたことがなく、近隣との付き合いもほとんどないまま、これまで質素な生活をしていた。

母が元気な間は、複数の課題を抱えながらも、何とか生活が成り立っていたが、数年前からの母の身体状態低下に伴い、「母の介護」「兄弟の健康状態（かなり痩せている）」「兄弟の就職」「床板の修繕」等、様々な課題が浮き彫りとなり、“自分からSOSを出せない”まま生活をしていたことがわかった。

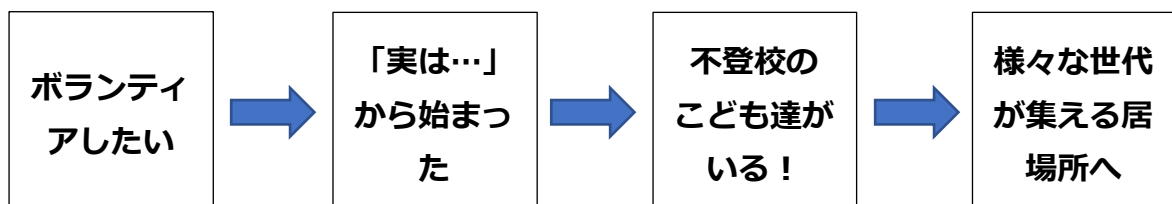
CSWとしては、世帯と信頼関係を丁寧に築いていくことをめざした。まず世帯が最も心配していた「床板の修繕」を最優先課題として捉え、関係機関と調整し、無事、修繕を済ませることができた。このことをきっかけに、世帯との信頼関係構築につながり、その後も「母の介護保険申請」や「兄弟の検診受診」等、複数の課題解決につながった。今後はこれまでなかった「地域住民との関わりの機会」をつくっていきけるよう支援していきたい。



事例2 不登校の子ども達が安心して過ごせる居場所へ

40代女性Aさんは家族（夫・娘）と同居している。CSWがAさんと出会ったきっかけは「ボランティアしたい」と本会に来所したことであった。窓口でCSWが話を伺うと、「実は…」と中学生の娘さんが小学生の頃からいじめで不登校になっていることを打ち明けてくれた。娘さんは精神疾患を患ってしまっており、そんな娘さんを辛い気持ちで支えている母親のAさん自身も、ふさぎ込んでしまう様子。ボランティアをすることで、気持ちの切り替えをしたいという。

CSWとしては、まずはAさん自身が安心して過ごせる場所があると良いと感じ「良かったら娘さんと一緒にどうぞ」と地域の居場所につないだ。居場所には、地域の高齢者が中心に参加されていたため、中学生の娘さんには、同世代ではない安心感のある場所となった。Aさんにとっても、娘さんが安心して過ごせる場所が見つかった安堵から、親子で居場所に来るようになった。これまで、高齢者の居場所づくりを行ってきた地域福祉サポーターが、子ども達が安心して過ごせるような体制を作ってくれた。CSWはAさん親子以外の不登校の親子も居場所に誘い、複数の不登校の子どもが来られる場所となり、多世代が交流する居場所が変わっていった。



(3) 地域アセスメントシートの更新

地域アセスメントシートは、地区の基本情報や地域特性（歴史、文化、自然環境等）、活動に取り組む中で地域が直面する課題、社会資源（地域住民・組織・団体の活動内容や状況など）や地域におけるニーズ等を各地区のCSWが整理したものです。また、それらを踏まえつつ、CSWが地域における取り組みの中で見えてきた課題を抽出し、CSWとして今後取り組んでいきたいことをまとめました。

「アセスメントシートの項目」

①基本情報（人口・高齢化率・自治会）、②どのような地域特性（歴史、文化、自然環境、産業等）か、③どのようなニーズがあるか、④どのような福祉活動（フォーマル）があるか、⑤どのような福祉活動（インフォーマル）があるか、⑥地域に「あったらいいな」と思うもの、⑦「あったらいいな」の実現のために、活用できる資源（ヒト・モノ・カネ・情報）、⑧現在取り組んでいること、見えてきた課題、⑨CSWがこれから取り組みたいこと

地域を客観的に捉え、分析し、「見える化」することは、誰もが安心して暮らせるまちづくりを住民、関係機関・団体の皆様とともに検討する上で欠かせない取り組みであり、今後も継続してアセスメントシートを見直していきます。

なお、次ページ以降のアセスメントシートは紙面の関係上、一部を抜粋しています。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	32,768人（16,824世帯）
年少人口0～14歳	3,722人（11.4%）
生産年齢人口15～64歳	22,124人（67.5%）
前期高齢者65～74歳	3,534人（10.8%）
後期高齢者75歳～	3,388人（10.3%）
【現状】	自治会加入率 74.1%
どのようなニーズがあるか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の相談支援を行う中で、社会的に孤立している若い世代の相談も多く、経済的困窮、疾患や人間関係や生活環境面での課題等複合的な課題を抱えていることが多い。 ・ 地域で活動する団体は多くあることから、担い手、特にリーダーを担う人材が不足している。 ・ ゴミや物があふれた居住環境があり、近隣トラブルにつながっているところがある。 ・ マンションやアパートが他地区より比較的多く、住民同士のつながりがつくりづらい。 ・ 学校へ通いづらいうら子供や生徒をどのようにサポートするかが課題。 <p>【必要なニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災訓練の見直しや防災の組織を検討したい。 ・ 電球交換や草むしり等ちょっとした困り事を地域で助け合える活動を検討したい。 ・ マンション住民とつながる居場所があるとよい。 ・ 若い世代を含め、誰でも気軽に集まれる居場所があるとよい。

内容	
現在取り組んでいること、見えてきた課題	<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金山食堂誰でもランチ会 前年度と同様、一人暮らしの高齢者や子育て世代などが参加しており、多世代交流の場となっている。参加者全員が役割を持ちながら参加し、他市からの視察も多く受け入れた。 ・ 所沢地区活動拠点 CSW が担当する毎週木曜日のフリースペース、地域福祉サポーターが主体となって運営するカフェ、カレーの日、メンズ会の取り組みが安定的、継続的に実施できている。拠点での活動を通して、地域でたくさんの方とのつながりができたり、次のステップに移ったりした人もいる。地域福祉の推進のあり方や拠点に集まっている人へのサポートのあり方をCSWとサポーターとが検討し、共有する場にもなっている。 <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金山食堂誰でもランチ会 平成30年度までは社協がリードしながら進めていたが、令和元年度から、住民のボランティアが話し合いながら活動を進めている。社協職員も連携しながら、活動を継続しているが、中心となるボランティアを厚くしていくことで安定的な運営が望める。 ・ 所沢地区活動拠点 必要に応じて地域福祉サポーターの協力を得ながら常設型の居場所を充実させていく。

CSW がこれから取り組みたいこと

①見守りや支え合いの仕組みづくりの検討

所沢地区内の自治会等から、見守りや支え合いの仕組みについて検討したいという声がある。また、実際に検討を進めているところもある。電球交換や草むしり等ちょっとした困り事を地域で助け合える活動について検討の輪を広げていきたい。

②情報の発信

現在所沢地区での様々な取り組みが行われていることから、その情報を随時発信できるようにしていきたい。そのため方法を地域福祉サポーターをはじめ、地域の関係団体やボランティアと検討していきたい。また、福祉掲示板のさらなる活用を進めたい。

③常設型の居場所の充実

現在所沢地区活動拠点は、毎週木曜日と金曜日に活用されているが、他の曜日でも活動を充実させたい。令和元年度は地域福祉サポーターによる活動が月1回追加されたが、今後もサポーターのアイデアや力を活かしながら活動を展開できると良い。また、要支援ケースへの対応について検討したり、共有したりする拠点としたい。

また、現在の拠点だけでなく、活動拠点の開拓も進めていきたい。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	市全体（R1.9月現在）
年少人口0～14歳	松井地区
生産年齢人口15～64歳	【自治会】
前期高齢者65～74歳	自治会数
後期高齢者75歳～	自治会加入率
【現状・必要なニーズ】	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢になると坂道が多いので買物（近くに買物のできる店がない）・通院が困難。 ・閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者や子育て世帯がいるので、気軽に集える場所（サロンなど）があるといい。 ・児童館等の子どもが遊べる場所、子育ての情報収集・交換ができる場所が少ないことから、孤立している世帯がないか心配。情報収集・交換ができる場があるといい。 ・ちょっとしたお手伝いをしてくれる方がいるといい。 ・災害（特に水害）の際、避難所が遠く、歩いていくことが困難。 	
どのようなニーズがあるか	

内容	
【取り組んできたこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・長年、地域で孤立していた7040/8050問題を抱える世帯に対し、信頼関係の構築を図り、地域包括支援センターや医療機関、住宅改修等につなげることができたケースがあった。 ・松井ちょこっと相談（松井地区社会福祉協議会にて毎月第11日曜日10時～12時）毎月実施。個別・地域相談を受け、情報提供や関係機関・CSWによる継続支援につなげているほか、日頃、他者と話をする機会が少ない独居高齢者がおしゃべりをしに来る場所にもなっている。今後、相談案件の情報共有・課題抽出を行っていききたい。 ・身近な地域における福祉体験の場（松井地区社会福祉協議会にて実施） 「まつい福祉体験講習会」では、多数の参加があり、高齢や障がいについて考える機会もあるだけでなく、体験を通じた交流の機会ともなっている。また、初めての取り組みとして、地区防災訓練に地区社協として参加し、福祉体験コーナーを担当した。 ・サロン助成事業（松井地区社会福祉協議会にて実施） 地区内におけるサロン立ち上げ・運営支援を実施。前年度8月から今年度は9サロンへの助成を行った。サロン交流会では各サロン同士の情報交換や交流を行った。
現在取り組んでいること、見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> 【見えてきた課題】 ・CSWの取り組みについて、地域住民への周知が不足しており、地域で孤立している。様々な形での地域住民や関係機関への発信を通じて、SOSを出すことが困難な世帯をキャッチしていききたい。 ・松井ちょこっと相談では、今後、住民への認知度を高めていく必要がある。 ・地区社協として身近な地域における体験の場の提供を推進する方向性が出ているが、いかに若い世代の参加につなげるか。 ・サロンの少ない地域や子育てサロンの立ち上げや支援が必要。

CSW がこれから取り組みたいこと

①地域住民・関係機関と連携しての個別支援の実施

個別ニーズに対するアンテナを広げ、キャッチしていく必要がある。地域住民・関係機関（地区社協、民生委員児童委員、サポーターなど）との連携を密にすることで、課題を抱えている世帯の情報を収集し、課題解決に向けた働きかけを行うと同時に、個別の課題を地域の課題として提起することで、地域における支援の輪・見守りの意識向上を図る。

②様々な形態による身近な場所での集いの場（居場所）づくり

高齢者はもちろん、子育て世帯が増加している地域もあることから、多世代型の集いの場が必要。学習支援やダブルケア、閉じこもりの方の支援の場としても活用していききたい。また、活用場所だけでなくリーダーとなれる方の開拓や育成も検討していききたい。

地区社協による助成先サロンについては、サロン同士の情報交換・交流はもちろん、地区社協行事への積極的な参加・協力を促し、地域のつながりづくりを進めていく。

③身近な地域におけるふくし学習の場の提供

福祉体験講習会や地区防災訓練、小中学校のふくし授業等、様々な角度から、地域住民が身近な場所へ気軽にふくし体験・学習をする機会を積極的に設けることにより、地域福祉や防災に関する意識の向上を図る。また、若い世代の参加について、積極的に働きかけを行っていく。

担当地域（地区）の状況	
基本情報	【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在
	地区全体（世帯数） 18,885人（8,761世帯）
	年少人口0～14歳 2,223人（11.77%）
	生産年齢人口15～64歳 12,634人（66.90%）
	前期高齢者65～74歳 2,292人（12.14%）
	後期高齢者75歳～ 1,736人（9.19%）
どのようなニーズがあるか	【現状】
	<ul style="list-style-type: none"> ・旧村は3世代同居が多く、高齢者は家族に車を出してもらわれないと出かけられない。 ・相談支援を行う中で、経済的に厳しいというお話を聞くこともあり、子ども食堂等の支援が必要ではないかと考えられる。試行実施した子ども食堂イベントに、子どもたちが数名しか集まらなかった。小学生以上の児童を対象にしたイベント等での、児童の参加率が低い。
現在の取り組み	【必要なニーズ】
	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでも相談会をまちづくりセンター1箇所だけでなく、身近な自治会館でやって欲しい。 ・既存の子育てサロン、サークルなどに馴染めない方が、同年代の方とこのことを話せる地域の居場所を求めている。 ・朝食を食べないで保育園に来ている子どもたちがいる。乳児の場合はおやつが出るので、昼食まで持つが、幼児の場合となると昼食まで何も食べない状態が過半数になる。

内容	
現在の取り組みと、見えてきた課題	【取り組んできたこと】
	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの子どもの居場所の試行実施場所として、東所沢3丁目のサロン会場を子どもの居場所活動に使用し、平日25日間使用した。民生委員、地域福祉サポーター、サロンの運営スタッフ、地域包括支援センター等、当番スタッフとして関わっていただいた。 ・中学校での認知症サポーター養成講座を地域のキャラバンメイトや地域包括支援センターと連携して実施できた。東所沢小学校では、より実体験に近い授業にするため、地域住民によるゲストスピーカーや、近隣の福祉施設との交流等、自分達の生活と絡めた授業に取り組み始めている。
今後の取り組み	【見えてきた課題】
	<ul style="list-style-type: none"> ・東所沢3丁目のサロン会場を平日の空いている日に貸し出しをしているが、サロンスペースが限られていること、運営スタッフの確保ができないことから、実際には活用できていない。 ・区内内の全ての小中学校では、「福祉」に関連する講座等が実施されているが、講師による講演、疑似体験等が中心であり、実感としての経験や、自分たちの生活と絡めた授業展開を進めたいと考えているが、授業数の確保が難しい現状もあり、実施に至っていない。

CSW がこれから取り組みたいこと

① 子どもの居場所づくりの展開

現在、柳瀬地区には子ども食堂はないが、興味・関心のある方や、子ども食堂が欲しいという意見は時々聞かれる。夏休み期間に試行実施として「なつやすみ いっしょに たべよ」を実施したほか、子ども食堂に向けたイベントなど、子どもを対象としたイベントを実施しても、実際には子どもたちの参加がほとんどないという現状である。支援が必要な子どもたちに、実際に利用されるような取り組みを地域の方と検討していきたい。

② なんでも相談会の実施場所・回数の増加

自治会館等を使った相談会とサロン活動の立ち上げについては、相談に行つたことを知られたいくないという意見がある地区のため、健康教室などをやりつつ相談会のアピールを検討する。また、社会福祉法人の公益的な取り組みである「相談会」の周知と共に、気軽に相談してよいことのアピールを地域に広げていきたい。

③ 地区にある小中学校3校全での統一ふくし学習の実施。

地区内に小中学校が3校あるが、福祉に関する授業については、学校によって実施時間な内容等がまちまちである。小学校2校の生徒が1つの中学校に進学するため、小・中学校一連の流れでのふくし学習の展開ができることが望ましい。

また、地域住民や近隣の福祉施設との交流等、自分達の生活と絡めた授業展開を実施したい。学校行事等での、地区の福祉施設との交流は、職場体験や学校での交流会等で既に行われているが、福祉について学ぶ機会としては十分とは言えない。身近な生活の中での福祉について、地域資源を活用しながら、体験だけに終わらない学びにつなげていきたい。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	22,811人（9,860世帯）
年少人口0～14歳	2,662人（11.7%）
生産年齢人口15～64歳	12,914人（56.6%）
前期高齢者65～74歳	3,437人（15.1%）
後期高齢者75歳～	3,798人（16.6%）
【現状】	自治会加入率 61.9%
・他地区に比べて三世代で住んでいる世帯も多い。	
・地区別で高齢化率が市内第2位。	
・バスが通っていない、または本数が少ない地域がある。	
・歩いていける距離にスーパーなどがない。	
・地域との関わりが希薄になってきている。	
・自分でできることはしたいと思っている人は多くいるが、支え合いには結びつきにくい。	
【必要なニーズ】	
・買い物や通院等の移動手段。	
・生活困窮世帯や40代～50代の社会的孤立状態にある人の居場所。	
どのようなニーズがあるか	

内容
<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・談笑タイム（相談会）の開催（H30.10月～） 毎月第1・3木曜日 10時00分～12時00分 富岡まちづくりセンターロビー <p>サロンの形で地域住民と顔の見える関係作りを行いながら、個別ケースや地域ニーズの発見、地域資源の発掘・開発を行うことを目的として開催している。地域住民が居場所として利用しつつ、必要に応じて生活の不安や困りごとを地域の住民と共有する場となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所等の立ち上げ・運営支援 <p>小地域での居場所づくりの相談及び立ち上げ・運営支援を行っている。富岡福祉プロジェクトと協力し、福祉のまちづくり助成金を財源とした、サロン等への活動助成金を創設した。</p> <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富岡地区は東西に大きく、まちづくりセンターまで来ることができない住民もいる。相談会などの取り組みを複数箇所で行っていく必要がある。 ・認知症などが進行してくると、地域のサロン・居場所等で地域住民だけでは対応しきれないとの声も上がってきている。 ・富岡地区内でも、地域によって特徴や生活圏、課題が異なる。

CSW がこれから取り組みたいこと

①富岡地区小地域住民懇談会

現在、富岡地区全体で年1回の住民懇談会が行われているが、地区が広範囲になるため課題にばらつきがある。そのため、小地域ごとに分けることで住民にとってより身近な地域でのニーズ発見を進めたい。現状としては、3地区または4地区（小学校区程度）に分けた形での開催を検討している。なお、富岡地区は自治会単位での活動が盛んであるため、自治会にも協力をお願いをしていく。より身近な地域でのニーズ発見を住民自身が行うことで、地域課題や地域活動への興味・参加意欲を高めていくことも意図している。

②困りごとの解決に向けた支援・見守り体制の仕組みづくり

CSW に入る個別相談から困りごとの解決に向けた支援や見守りの体制づくりを積み重ねていき、近所で暮らす住民同士での助けあい活動や見守りの仕組みづくりを行いたい。他地区に比べて、三世代で住んでいる家族が多く、地域や自治会のつながりが強い地域だが、地縁の希薄化は進んでおり、SOSを出せないでいる地域住民や困りごとを解決できないでいる地域住民がいる。助けあいや見守り体制を地域の仕組みとして取り組めるようすることで、住民同士が支えあいの関係を持ちながら生活をしていけるよう支援を行う。

一方で、富岡地区内は高齢者や障害者などの福祉関連施設も多く、暮らしの相談事業に参加している事業所が6ヶ所ある。福祉関連施設とも協働しながら、生活の困りごとや不安を相談できる場や困りごとの解決に向けた仕組みをつくり、地域住民が安心して暮らせるよう働きかけを行っていく。

令和元年からは、富岡福祉プロジェクトと協働してサロン等への活動助成金を創設した。助成金も活用しながら、地域住民が関係づくりを行える居場所の立ち上げも支援していく。

③CSW の認知度を上げる

困りごとの相談先を知らない住民もたくさんいるため、社会福祉協議会やCSW についての周知を行う。まずは地区内にあるサロンや健康体操をはじめとする地域の居場所や地区内のイベント等を訪問し、地域住民とCSW が顔の見える関係構築する

また、機会に応じて社協だより「ちゃお！」やチラシ等を配布し、CSW の活動状況の報告も地域住民向けに行っていく。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	28,576人（13,586世帯）
年少人口0～14歳	3,348人（11.7%）
生産年齢人口15～64歳	18,245人（63.8%）
前期高齢者65～74歳	3,229人（11.3%）
後期高齢者75歳～	3,754人（13.1%）
【自治会】	17
自治会加入率	61.7%
【現状】	<ul style="list-style-type: none"> 西武線の始発駅の1つでもあり、都内通勤者のアクセスが良く利便性が高い。 集合住宅も多く、単身高齢者や虚弱高齢者も多く、自宅にとじこもりがちになり、認知症の発見が遅くなったり、孤独死が問題になったりしている。 向陽町や青葉台エリアには戸建て住宅が密集しているが、空き家や住宅の維持管理が困難になったと思われる住宅もいくつか見受けられる。 青葉台や向陽町の西部は地区内に歩いて行ける範囲にサロンなど気軽に立ち寄れる場が、ほとんどない。 ちょっとした困りごととのニーズは高まってきているが、担い手不足やコーディネート機能が無く、お助け隊の実現までには至っていない。
【必要なニーズ】	<ul style="list-style-type: none"> 住民同士が見守りあう仕組み。 歩いて行ける範囲の気軽に立ち寄れる居場所（多世代交流）。 ちょっとした困りごとに対応できる活動や仕組み。
どのようなニーズがあるか	

内容	
【取り組んできたこと】	<ul style="list-style-type: none"> CSWによる（個別・地域）ニーズのキャッチとして、『ぐりーんぼけっと』における福祉なんでも相談会の実施（毎月第3金曜日）。 「しんとこ福連」や「地域福祉サポーターの定例会」等、地域内の情報共有ができた場や関係機関との情報共有。 新たな担い手の発掘のため、講座参加者へ地域での活動に結び付けられるよう、アプローチを行った。 「しんとこ広場ないる（毎月第1・3水曜日）」を通じて、高齢者中心の居場所を多世代型の居場所づくりへ（不登校の親子参加）。
【見えてきた課題】	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民に対し、CSWの周知が不足している。 講座の参加やサークル活動など、社会参加をしている人は多いが、自治会活動や支え合いの活動に関心を持てない方が少なく、ボランティアの高齢化が進んでいる。 比較的若い世代も多い地区ではあるが、若い世代とCSWがあまりつながっていない。 ちょっとした困りごとに対応するボランティア活動のニーズが高まってきており、支え合いの仕組みの構築が必要である。
現在取り組んでいることと見えてきた課題	

CSWがこれから取り組みたいこと

① ちょっとした困りごとに対応できる活動について話し合いを行う

様々な会議の場や、自治会・町内会、まちづくり協議会等の話し合いの機会に、ちょっとした困りごとに対応できる支え合いの活動について、一緒に考える機会を設けられるよう働きかけを行いたい。自治会・町内会の単位で、連携できるような関係づくりを進めたい。

② 高齢者の生きがいのある場とこどもの居場所の推進

多世代交流や高齢者の生きがいのある場として、「しんとこ広場ないる」のこどもの居場所の取り組みが安定するよう、側面的なサポートをする。こどもの参加を定着させるため、子ども自身が担い手になったり、意見をとり入れられたりした運営を助言していく。また、この取り組みが地域で定着することにより、支援が必要なこどもの居場所になったり、関係機関から相談や情報が入りやすくなったりするため、積極的に情報提供をしていきたい。

③ 若い世代とのつながりづくり

防災をテーマとしたイベントや、小中学校のふくし学習等、若い世代の参加について、様々な機会を通じて積極的に働きかけを行っていく。地域の課題を共有し、若い世代が参加できる支え合いの活動について、アプローチしていきたい。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	16,709 人（8,221 世帯）
年少人口 0～14 歳	2,119 人（11.7%）
生産年齢人口 15～64 歳	10,617 人（63.5%）
前期高齢者 65～74 歳	1,911 人（11.4%）
後期高齢者 75 歳～	2,062 人（12.3%）
	自治会加入率 65.4%
【現状】	<ul style="list-style-type: none"> 住民の高齢化に伴い、つながりやみまもりが重要になってきているが、閉じこもりを防止するために、地域活動への参加を促しても、参加しない人も多い。 地区内には体操教室等はいくつかあるが、気軽に誰でも立ち寄れるサロンなどの居場所が少ない。 ふくし掲示板の設置が少ない。 地区内に1カ所あった「車いすステーション」がなくなってしまった。
どのようなニーズがあるか	<p>【必要なニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民同士が交流をするためにも、地域の中にちよっと立ち寄れて、気軽にしゃべりができるような場所（サロン）。 多世代で交流できる場。 地域活動などの情報を身近に得られるツール。 車いすステーションの設置。

内容	
【取り組んできたこと】	<ul style="list-style-type: none"> しんとこイーストネットとの連携 高齢者いたわり部会では、住民の集まる場面において、CSW の活動や役割について周知を行った。また、こども健全育成部会では、地区内のこども食堂の情報提供や、学習支援との連携を行った。 個別相談の対応として、いわゆるゴミ屋敷の清掃や居場所や学習支援の場へつなぐ等々の支援を行った。 地域のこども食堂と連携し、気になる親子への声かけや見守りを行った。 中学校でのふくし学習では、自治会や民生委員、長生クラブ、地域福祉サポーター、地域包括支援センターと連携し、地域の活動を知るための授業を行った。
現在取り組んでいること、見えてきた課題	<p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気な高齢者は複数の活動に参加しており、地区外にも出掛けている。一方、地域との接点を持たない方、とじこもり高齢者も多い。声をかけても外に出ない方をどのように地域とのつながりをもたせられるかが課題となっている。 サロン等の住民の居場所を希望する声は上がるものの、担い手が見つからず、具体的な活動には至っていない。

CSW がこれから取り組みたいこと

①地域情報の発信

■ ふくし掲示板の設置

地域活動の情報を発信するため、ふくし掲示板を地区内に増やしていきたい。

②居場所づくりの取組み

■ 居場所づくりのための懇談の場を設定する

ラーク所沢や花園会館等、公的施設や町会館などを活用した多世代交流のイベントや、居場所づくりのための懇談の場を設け、具体的な居場所づくりにつながるようサポートをしていきたい。

■ 地区内で使える助成金のしくみづくり

しんとこイーストネットと協力をしながら、地区内で使える助成金のしくみを整理して、自発的な取り組みを応援する体制を整えていきたい。

③担い手の発掘・育成

住民活動へ意識を高めるための啓発の場（懇談会や福祉講座等）を設け、地域活動の新しい担い手の発掘につなげていきたい。

④「車いすちよい借りステーション」の増設

地区内に1カ所あった「車いすちよい借りステーション」が無くなってしまったため、商店や公共施設等へアプローチし、新たな車いすちよい借りステーションを設置していきたい。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	41,424人（19,052世帯）
年少人口0～14歳	4,630人（11.17%）
生産年齢人口15～64歳	23,885人（57.65%）
前期高齢者65～74歳	6,247人（15.08%）
後期高齢者75歳～	6,662人（16.08%）
【自治会】	17
自治会数	63.2%
自治会加入率	63.2%
【三ヶ島第一地区（三ヶ島、和ヶ原、林、西狭山ヶ丘）】	
【現状】	・地域のつながり、関係が良好で地区ごとのお祭りや催しや催しの参加も積極的で顔が見える関係ができています。地区に早稲田大学や県立芸術総合高等学校があります。
【必要なニーズ】	・狭山ヶ丘駅から遠く、車がないと移動や買い物など交通アクセスが不便。
【必要なニーズ】	・送迎サービス ・見守りや交通安全パトロールの強化 ・学生と交流できる場所
【三ヶ島第二地区（東狭山ヶ丘、狭山ヶ丘、若狭）】	
【現状】	・狭山ヶ丘駅周辺は転入者が多く、隣近所との関係も希薄で、自治会加入率も低い。
【必要なニーズ】	・地域とのつながりや顔が見える関係を築ける居場所や活動

どのような
ニーズが
あるか

CSW がこれから取り組みたいこと

①地域福祉部会の見直し

これまでは一つの協議体で三ヶ島地区全域の課題を検討し、事業に取り組み進んできた。しかし、包括圏域では2地区あり、地域課題を検討するには広いという課題が挙がっていた。

協議する場を2つに分ける意見もあったが、来年度は現状の形を継続して行う。ただし、それぞれの地域課題に合った構成員の入れ替えをしながら、意見交換をしていく。

CSWとして、部会で活発な意見交換がされるようにアイデアの提案や、運営の支援を行っていく。

②「防災」を考える住民懇談会の開催

東狭山ヶ丘エリアでのケア会議で防災についてあまり関心が高かったことから、三ヶ島第二地区の第2層SCと連携し、三ヶ島第一地区に在籍している防災士の協力を得て、小単位での防災講話やHUG訓練などを実施したい。この取り組みを通じて住民の防災意識を高め、いざというときに備える。災害時に自助ができる知識や心構えを学び、共助ができる顔が見える関係づくり・地域づくりを進めていきたい。

③地域福祉部会×早稲田大学のコラボ

三ヶ島地区には早稲田大学があり学生が多く行き来している。その中に、早稲田大学の教授が代表を務め、学生や社会人で構成されているNPO法人「生活福祉フアクトリー」がある。地域貢献に協力的な社会福祉法人等もあり、これらの法人に協力を得ながら、三ヶ島に住む若者世代や子育て世代を取り込んで、多世代の交流ができる居場所づくりをすすめる。

担当地域（地区）の状況

【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	41,424人（19,052世帯）
年少人口0～14歳	4,630人（11.17%）
生産年齢人口15～64歳	23,885人（57.65%）
前期高齢者65～74歳	6,247人（15.08%）
後期高齢者75歳～	6,662人（16.08%）
【自治会】	17
自治会数	63.2%
自治会加入率	63.2%
【三ヶ島第一地区（三ヶ島、和ヶ原、林、西狭山ヶ丘）】	
【現状】	・地域のつながり、関係が良好で地区ごとのお祭りや催しや催しの参加も積極的で顔が見える関係ができています。地区に早稲田大学や県立芸術総合高等学校があります。
【必要なニーズ】	・狭山ヶ丘駅から遠く、車がないと移動や買い物など交通アクセスが不便。
【必要なニーズ】	・送迎サービス ・見守りや交通安全パトロールの強化 ・学生と交流できる場所
【三ヶ島第二地区（東狭山ヶ丘、狭山ヶ丘、若狭）】	
【現状】	・狭山ヶ丘駅周辺は転入者が多く、隣近所との関係も希薄で、自治会加入率も低い。
【必要なニーズ】	・地域とのつながりや顔が見える関係を築ける居場所や活動

内容

【取り組んできたこと】	・みんなの縁側 みかじま さんさん 夏休みに6日間の学習支援を実施。地域住民と学生ボランティアが交流する機会となり、このつながりをきっかけに学生ボランティアと地域の関わりが増えた。
【見えてきた課題】	・空ちゃん和ヶ原 こども食堂 和ヶ原地区において林小学校区を対象にこども食堂が立ち上がり、1年が経過。13区集会所を使用している。主任児童委員が気になる世帯をつなげていく。周知が行き届いており参加する家庭が増している。 ・よつてくらっしゅ相談会（毎月第4水曜日） 狭山ヶ丘コミュニティセンターのロビーをお借りして、出張相談を行っている。入り口付近の人の目に付くところに開設していることから、施設を利用する方が足を止めて話し出し、相談につながることも多い。相談件数も一定数あることから周辺地域から認知されていることが分かる。
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	・みんなの縁側 みかじま さんさん 周辺住民以外はなかなか集まりにくく、場所も分かりにくく、活用方法や周知方法が課題。 ・空ちゃん和ヶ原 こども食堂 ボランティアスタッフなど担い手の確保。参加者の増加に伴う各種対応。（資金面、運営面） ・よつてくらっしゅ相談会 狭山ヶ丘コミュニティセンターから離れた地域の方が訪れることは難しく、利用者は一部の住民に限定されている。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	49,623人（22,558世帯）
年少人口0～14歳	6,335人（12.8%）
生産年齢人口15～64歳	30,514人（61.5%）
前期高齢者65～74歳	6,636人（13.4%）
後期高齢者75歳～	6,138人（12.4%）
【現状】	
（小手指第1地区）	
・地区面積が大きく、小地域単位で見ると支え合いに対する意識に差がある。	
（小手指第2地区）	
・駅前にマンションが立ち並ぶ中で支え合い活動を積極的に行う場所もあれば、実施したいと考えていても周りの協力が得られないケースもある。	
【必要なニーズ】	
（小手指第1地区）	
・小地域単位で支え合いの活動を増やす。	
（小手指第2地区）	
・マンション等集合住宅における支え合い活動の支援を行う。	
どのようなニーズがあるか	

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 談話室こてまる（相談会の開催） <p>令和元年7月より毎月第3金曜日の14時30分から16時まで小手指まちづくりセンターの協議室を使用し、住民向けの相談会を開始した。現状住民の方が相談に訪れることは少なく、小手指第1地区民生委員・児童委員協議会の方と個別ケースについての情報共有する場となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民懇談会 <p>小手指まちづくり協議会の地域福祉部会と共催し、こどもから大人まで支え合いまちづくりを目指してというテーマのもと、住民懇談会を開催した。地区面積が大きいことから地域の課題が異なるため、5つに分けて議論を行っている。参加者は実際にサロン活動を行っている方や民生委員・児童委員の方が多い。</p> <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 談話室こてまる（相談会の開催） <p>小手指地区の誰も立ち寄りやすい場として相談会の周知を行う。また、相談会場から距離のある小手指第2地区の住民の方に向けての相談方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民懇談会 <p>課題をより明確にして議論をするため、第1地区・第2地区に分けて開催を検討する。また、住民の方に地域福祉活動に興味をもっていただけるようなテーマを検討する。</p>

CSW がこれから取り組みたいこと

① 椿の茶の間(椿峰コミュニティセンターを活用した交流の場)

椿峰コミュニティセンターの館長よりセンターを活用した交流の場づくりの提案をいただき、日頃センターを利用している方々に呼び掛けたところ、センター近隣に住む住民の方が主導となり、トロン元氣百歳体操と参加者交流を取り入れた「椿の茶の間」が発足した。

開始当初は2、3名だった参加者が現在は多い時で30名近くになる日もある。現在は体操を中心に行われているが、次の段階として、地域ケア会議や住民懇談会などで関心がある取り組みとして取り上げられていた多世代交流に繋げていく。具体的には椿の茶の間に参加されている方の特技を生かし、夏休みのことにも対して自由研究の手伝いなどの取り組みを小手指第一地域包括支援センターSCと連携して行う。このような取り組みを行うことで椿の茶の間の活動を広げていくとともに、地域に多世代交流の楽しさを広げていく。

② 地域の中にある「支え合いの場」の見える化

住民懇談会の中で、地域にある「支え合いの場」を知らないために本当は興味があって参加したいのに参加できない人がいるという問題が提起された。地域の中に実際にどんな支え合いの場があり、活用するにはどうしたらよいかを目に見えるかたちで分かり、相談できるよう、所沢市地域資源情報サイト「トコまっぶ」を地域の中で繰り返し周知していく。一方、インターネットが操作できない年齢層などにも対応ができるよう、小手指地区の支え合いマップの作成や地域への活用促進方法なども検討していく。

また、CSWとしても実際に「支え合いの場」に向き実際の活動を確認することで、地域の方からの問い合わせ・マッチングに即時に対応できる力を備える。

③ 「支え合いの場」に関わる人・場所の発掘

支え合いの活動を行う際に地域福祉活動を行う「人」と「場所」が確保できないことが課題として挙げられる。

「人」については、全体を通じて支え合い活動の重要性・楽しさを知ることができている場を小手指まちづくり協議会地域福祉部会と共催で実施する住民懇談会をはじめとして、その他研修や講演などを企画・実施していく。その中で地域福祉活動に興味を持ち参加したいという声を増やしていく。

「場所」については自治会館などの活用が難しい地域もあるが、地域にある企業など活用できそうな場所に協力依頼をしていくなど、活動の場を発掘することで活動が活発に行われる環境作りを行う。取り組みにあたってはCSWだけでなく、地区のSCの方々と連携していく。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	28,847人（12,836世帯）
年少人口0～14歳	3,264人（11.3%）
生産年齢人口15～64歳	16,620人（57.6%）
前期高齢者65～74歳	4,672人（16.2%）
後期高齢者75歳～	4,291人（14.9%）
【自治会】	35
自治会数	35
自治会加入率	52.5%
【現状】	
・地域包括支援センターに入る認知症高齢者の相談件数が増加している。	
・椿峰ニュータウンなど丘陵地帯のため坂道が多く外出の支援が必要になる	
・買物定期便といった住民主体のボランティア活動が10年以上続いていたものの担い手不足で継続が難しくなっている。	
・自治会の加入率が他の行政地区の中で最下位である。	
【必要なニーズ】	
・認知症になっても暮らしやすい地域づくりが必要である。	
・子育て世代の人達が集まれる場所が欲しい。	
・坂道に負けない体作りと外出できる場所が欲しい。	
・カフェなど交流の場が欲しい。	

どのようなニーズがあるか

	内容
【取り組んできたこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか談話室 山口まちづくりセンター1階の部屋（収容人数8名程度）第2・4火曜日午前中 CSW が常駐している。（民生委員の定例会が第2火曜日ということ考慮した。）地域福祉サポーター、民生委員、ボランティアを希望する人など参加しており、人と人がつながる拠点になっている。また相談を受ける場合もある。 ・研修会・住民懇談会 山口まちづくり協議会の福祉部会（≒地区社協）に年4回出席。事務局と相談して研修会と住民懇談会の打合せを行なっている。その年度に実施内容を提案する。福祉部会が年度の初めに事業説明会など住民向けに開催する際にも「社協とは」というテーマで説明。地域づくりに向けた課題解決に役立つ研修会と懇談会を提案している。
【見えてきた課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか談話室 部屋の収容人数から考えるとあまり広く周知しても難しい。また、情報交換の場所としては定着してきたが回数や実施方法など検討が必要 ・研修会・住民懇談会 地区委員という自治会の役員を各自治会単位で決めてもらっているが役員になっても何をのかが理解していない人がいる。いつも同じようなメンバーの参加傾向がある。
現在取り組んでいることと、見えてきた課題	

CSW がこれから取り組みたいこと

①交流の場（椿峰のみんなのお庭）

椿峰の緑道を歩いてまちセンから5分程度のところ（59街区）にコミュニティガーデン（いつでも誰でもお庭に関わる事ができる憩いの場）ができた。毎月第2土曜日の午前中が活動予定日になっている。申込みなど不要で活動日以外でも立ち寄り寄れる場所となっている。

この場所について CSW としては外出の機会になる場所として周知していきたい。さらにその場所がどこでも高齢者など交流ができる場所になるような仕掛け作りを提案していきたい。例えばキックンカーや移動販売車など可能かどうか情報提供するなど支援していきたい。こうしたことは、若い人達にも魅力があるものとなる。また、これらは高齢者にとっては外出の機会を作り認知症予防、介護予防といった点からもすすめていく必要がある。

②つばきのわ

「一般社団法人 つばきのわ」と「つばきの森のマーケット」を開催した方が立ち上げ設立した。メンバーは椿峰まちづくり協議会と地域福祉サポーターを兼ねている人や子供を持つ親などが中心となっている。所沢市椿峰ニュータウンを中心に「人やモノ・コトとつながり、暮らしを楽しむ」ことを推奨する一般社団法人です。①お出かけサポート②Web 版つばきの森のマーケット③小学生の放課後預かりなど検討しているところである。現在定例会を木曜日の午前中に開催しており社協としても支援をしている。個人宅を利用して冬休みこどもの預かりを開催したことから春休みも開催することで決まった。（コロナ感染対策を徹底し時期を早めて実施）今後担当としては学校関係者との連携を図りながらニーズを把握し情報提供していきたい。またさわやか談話室などでも情報交換の場として周知していく。

③トコロ元氣百歳体操

トコロ元氣百歳体操が一つのツールとして外出できるきっかけになればいいと考え、出前講座の依頼があったとき、さらにまちセンの職員などにも体操のよさを伝え続けてきた。その結果3年間でトコロ元氣百歳体操のできる場所が増加した。山口まちセンのホールはトコフットさんも4名参加するなど定着している。まちセンは自治会館がないところの人も参加できるメリットがある。さらにさわやか談話室で情報交換でも話題に上げ新たに自治会館で開催することになった。椿峰コミセン本館でも体操ができる状況になった。今後も住民主体の取組みをすすめるには身体を動かす機会になる点と閉じこもり予防になる点など考えて新たな地域でも検討してもらえようようにすすめていきたい。自治会館等で開催されている会場に向き困ったときの相談など対応する。住民からいつでも困ったときに相談できて頼れる CSW を目指していく。

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	37,186人（17,833世帯）
年少人口0～14歳	4,293人（11.5%）
生産年齢人口15～64歳	23,517人（63.2%）
前期高齢者65～74歳	4,840人（13.0%）
後期高齢者75歳～	4,536人（12.2%）
【現状】	自治会加入率 64.7%
どのようなニーズがあるか	<ul style="list-style-type: none"> ・所沢駅周辺には若い世代も住み出生数も増加している。 ・所沢駅前の再開発が進行中で住吉地区の人口増加と南小学校、南陵中学校の児童数の増加が予想される。 ・駅から遠い地域では若い世代と高齢者の交流の機会が少ない。 ・歩いていけるところに町内会の会館や集会所がないところがある。 <p>【必要なニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吾妻まちセンが遠い住民にとっては近くで交流できる場所が欲しい。 ・新しい住宅が増加する傾向があり子育て世代と高齢者の交流の機会が欲しい。 ・コーポラスでは後期高齢者が増加しており様々な問題を解決できる仕組みが欲しい。

内容	
現在取り組んでいること、見えてきた課題	<p>【取り組んできたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二木の広場 <p>平成30年度に荒幡自治会において住民懇談会を実施したところ何か地域のためにやりたいと思う人がいたことから、みんなの居場所作りを進めてきた。自治会館の開放について、何度か検討会を開いてもらおうことで解決し第2木曜日の午前中は使用が認められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなであそぼ <p>荒幡自治会館での住民懇談会から所沢市立第2幼稚園の協力で、毎月第4月曜日に幼稚園のホールで交流会を行い、高齢者と子ども達のふれあいの場になっている。</p> <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二木の広場 <p>最初にやってみようと思ったと思っていた住民が参加していないので新たな人材発掘が必要。若い世代の参加で「もったいない市」を開催しているが他の世代の人にどのように周知して理解してもらえないかが課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなであそぼ <p>民生委員や近所の人が参加できていない。自力で歩いてこられる人に限定していることもあるが参加者の増加はない。幼稚園児を持つ母親のグループが中心となり運営しているが、継続できるかが課題。</p>

CSW がこれから取り組みたいこと	
①居場所づくり	<p>吾妻地域包括支援センターと協力して地域の現状把握をした結果、荒幡地区で住民懇談会を開催した。その時に住民主体の取り組みができればと考えてアンケートを実施し自治会館を利用できるように進めて行った。しかしながら、自治会役員全ての人に理解してもらえなかった。時間的余裕を要したが、若い世代の方々の協力があれば、月に一度無料で荒幡自治会館を利用できるように進めたい。今後も誰もが立ち寄れる居場所となるように仕掛けづくりなど支援していきたい。もう一つの場所である所沢第2幼稚園においても同様に協力支援していきたい。</p>
②こども支援	<p>北秋津の「とんぼハウス」こども食堂については男子児童の数が多く時々こども同士の揉め事などもある。スタッフの支援を継続し時には学校、主任児童委員と情報交換をしていく。</p> <p>こどもの問題が起きる前に乳幼児の間から関わるとその後支援が必要になったときに関わりやすい、という声がある。保健センターや保育園などと情報交換を進めて保育園など高齢者がこどもの見守りなど出来る事がないか話し合うことを進めていきたい。子育て支援連絡会議にあわせて打合せを進めていく予定。</p>
③住民懇談会から地域の支え合い	<p>コーポラスの自治会役員にも住民懇談会の打診をしているところであり、話を前向きに進めていき新たな居場所づくりの支援をしていきたい。</p> <p>地域包括支援センターに相談が当たってくる課題も情報共有していく。課題解決の仕組みを作るための話し合いを進めていきたい。</p>

担当地域（地区）の状況	
【人口（割合パーセント）】 令和元年9月末現在	【高齢化率】 令和元年9月末現在
地区全体（世帯数）	23,733人（12,032世帯）
年少人口0～14歳	2,498人（10.5%）
生産年齢人口15～64歳	13,085人（55.1%）
前期高齢者65～74歳	3,783人（15.9%）
後期高齢者75歳～	4,367人（18.4%）
【現状】	自治会加入率 59.7%
どのようなニーズがあるか	<ul style="list-style-type: none"> 一人親家庭で親の帰りが遅い家庭が多い。 高齢独居で日々孤食であるため、食事に無頓着になりがちの方が多い。 因窮・高齢・多国籍・母子など、生活上の課題が多い世帯が多いため、地域での支え合いになかなか目が向かないことがあり、ボランティア活動者が不足している。 ・30～50代で働けていない人や引きこもりの人は地域で孤立しがちである。 ・体障教室が多く活気のある方が参加できる場所はあるが、虚弱の方、ゆっくり過ごしたい方は参加しづらい。
	【必要なニーズ】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日通えることも食堂や、多世代で食事ができる場所 ・30～50代が参加しやすい居場所 ・ゆっくりおしゃべりができ、自分のペースで過ごせるサロン

内容	
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・ほかほか広場並木8丁目（毎月第2・4水曜日 16：30～20：00 サロン幸福亭ぐるり）：参加者の多くは8丁目の県営団地に住む子どもたちで、ひとり親世帯が多い。調理ボランティアや学生ボランティア、新所沢ロータリークラブなど多くの方が関わり運営している。 ・ほかほかスカイ（毎月第2・4水曜日 10：30～14：30 スカイマンションA棟103）：地域住民からの情報があり、学校に行けない不登校の子どもや居場所づくりとしてスタートしたが、現在は「誰でも参加できる居場所」として開催している。 ・CSWによる相談会：毎週月曜日 13：30～15：30 サロン幸福亭ぐるり 毎週水曜日 13：30～15：30 スカイマンションA棟103 【見えてきた課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ほかほか広場並木8丁目：楽しみでの参加者が増え、会場の大きさをから本場に子ども食堂が必要な方達が参加できずに待機になってしまっている。 ・ほかほかスカイ：今後どのように地域の方を巻き込んでいくか検討が必要。 ・CSWによる相談会：決まった方しか来ないため、ニーズキャッチに限界がある。こぶし町や並木2・3丁目でのニーズを拾えない。困っている方だけではなく、心配してくれている周囲の人にも来てほしい。

CSW がこれから取り組みたいこと

①並木8丁目での住民懇談会

（並木8丁目子ども懇談会）

ほかほか広場に参加している子どもたちが主体となり、子ども食堂に来るようになる前、子ども食堂に来るようになった後の自分の生活の変化を話してもらい、子ども食堂が毎日開催されるとうなるかなど話し合いを行いたい。その後に、子どもたちから保護者、地域住民に対して「地域がこうなったらいいな」と語ってもらい、懇談を行うことで多世代が参加できる地域づくりのきっかけにしていきたい。

②CSWの周知

サロンや健康体操など地域の居場所に多く参加をし、地域の方々との関係形成を図っていくことでCSWの周知につなげていきたい。そして、困りごとを抱えている本人も、周囲の心配してくれている人も相談会などにも気軽に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。

③相談会から地域のニーズをキャッチする場へ

既に相談会を実施している地域では、CSW だけではなく地域の協力者とも連携しながら常時困りごとや不安を気軽に話すことのできる仕組みを考えていきたい。その他の地域では、まずは暮らしの相談事業を開催している法人及び地域の協力者と連携しながら既存の相談体制+αの仕組み（地域の方が話し相手として滞在する等）を考え、相談だけでなく自分の思いを誰かに話せる場を作っていきたい。また、本人からの相談だけではなく困りごとを抱えた人を心配する人からも相談を受けられるよう広く周知を行っていきたい。

わたしのまちの 相談窓口

(コミュニティソーシャルワーク担当)



松井地区

070-2173-0221

吾妻地区

070-3876-0225

新所沢東地区

070-3876-0229

富岡地区

070-3876-0222

柳瀬地区

070-3876-0226

所沢地区

070-3876-0230

小手指地区

070-3876-0223

三ヶ島地区

070-3876-0227

並木地区

070-3876-0231

山口地区

070-3876-0224

新所沢地区

070-3876-0228



受付時間 8:30~17:15 (土・日・祝を除く)

ボランティアの
相談をしたい



どこに相談したら
よいかわからない



子育てや福祉のことで
ちょっと聞きたい



所沢市社会福祉協議会 地域福祉推進課

住 所：所沢市泉町 1861-1
所沢市こどもと福祉の未来館 3 階

電 話：04-2925-0041

FAX：04-2925-3419

メール：0041m@toko-shakyo.or.jp

